

【授業科目】基礎看護学特論Ⅱ（看護の諸活動と専門性、看護技術教育） Advanced Fundamentals of Nursing Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
柴田 英治	1年次 後期	選択	2	30	講義	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	人々の健康生活を維持・向上させる看護の実践・援助のあり方を、医療・福祉・看護を関連させながら概説し、文献講読および事例検討を通してその専門性について理解を深める。また、援助関係成立の技術、安全・安楽等を提供する看護実践助技術を技術研究に関する文献を通して、その根拠を人間科学等の視点から考察する。課題に対するフィードバック方法／講義の中において口頭でコメントする。					
授業の位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー③、④の達成に寄与している。					
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助に関する文献考察やこれまでの自己の看護実践から看護援助について人間科学の視点から考え、考察することができる。 2. 看護の諸活動における看護の専門性、専門職性の現状を踏まえ、今後の発展について考えることができる。 3. 医療・福祉の連携、協働の課題とあり方を考えることができる。 4. 看護実践の基礎技術に関する研究文献を通して看護技術の科学的根拠をもとに、実践への応用を考えることができる。 					
時間外学習に必要な内容・時間	<p>授業で配布する資料および紹介する文献を講義前、講義後に読み、授業内容の理解を深める。(各90分) 提示された課題に関連する文献を検索・検討し、配布資料や授業の学びを合わせてレポートを作成する。(180分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>					
授業計画	<p>1～2回 ヘルスケアと看護の専門性1(講義) ヘルスケアにおける看護・看護活動の専門性、専門職性とは何かを、ヘルスケアの構造、他の専門領域との交差、看護職間の交差、医療・福祉・看護の連携等から論じる。</p> <p>3～4回 ヘルスケアと看護の専門性2・3(GW) 文献検討(先行研究の検討)</p> <p>5～6回 ヘルスケアと看護の専門性4・5(GW) 事例検討—講義内容を実践における事例を通して深める。</p> <p>7～8回 ヘルスケアと看護の専門性6・7(講義) ヘルスケアにおける看護の課題と研究 看護の実践における業務(実践)基準の意義</p> <p>9回 看護援助技術の検討1(講義) 援助関係とは、人間関係に関する理論</p> <p>10～11回 看護援助技術の検討2・3(GW) 看護におけるコミュニケーションの特性、実践事象から考える グループ発表</p> <p>12回 看護援助技術の検討4(講義) 技術の評価、Evidence-Based Nursing</p> <p>13～14回 看護援助技術の検討5・6(GW) 看護基礎教育における看護技術教育の課題と方法1・2</p> <p>15回 まとめ</p>					全て 柴田
評価方法 評価基準	レポート70% GWにおける意見発表の内容・方法30%で評価する。					
教科書	使用しない。		参考書等	適宜紹介する。		